

## 防府市の小学校外国語活動における指導の取組について

防府市立玉祖小学校

英語教育推進教員 菅野 智子

## 1 はじめに

防府市の小学校英語教育推進教員として、市内 14 の小学校の先生方と共に「新学習指導要領に沿った授業づくり」を行って 3 年目である。今年度は、①「思考」を働かせる発問や活動、②小中連携を取り入れた系統的指導、③音とつづりの関係を意識させる「読み」「書き」指導、④「指導」と「評価」の一体化を重点目標として授業づくりを行った。

今回は、防府市の外国語活動を英語推進教員の活動と併せて紹介する。

## 2 英語推進教員の配置校・兼務校における英語力向上の取組について

(1) 授業実践（通常授業：担任教諭 T1，推進教員 T2，提案授業：推教 T1，担任 T2）

- ・防府市は 2019 年度、小学 3・4 年生は週 1 時間（年 35 時間）、小学 5・6 年生は週 2 時間（年 70 時間）外国語活動の時間を全小学校で実施している。

(2) 指導案雛形データの提供

- ・年度初めに市内各小学校に「新学習指導要領に沿った指導案雛形（授業展開例）」データを送信し、「言語活動」を位置付けた授業づくりを徹底する。

(3) 研修会等の活用

○ミニ研修（英語推進教員訪問日の放課後に毎回実施）

- ・授業者（T1：担任教諭）は、当日の授業評を以下の点について行う。

① 授業の構成

- ・児童の演習時間の確保 …「慣れ親しむ」のに十分な時間設定(15～20 分) か。
- ・児童が「思考」を働かせたか…新語の音や意味がつかめるよう、繰り返し何度も意味が推察できる状況で聞かせているか。
- ・既習表現を活用する場の確保…Small Talk を帯活動で実施。言語活動を毎時間の授業に必ず位置づける。
- ・「めあて」と「振り返り」 …整合性があるか。振り返りを授業改善につなぐ。
- ・Good-bye challenge（指導と評価を一体化した振り返り活動）の実施。

②新学習指導要領に沿った授業展開について

③他校のよい実践の共有。（演習・データ提供・録画映像視聴・単元末の児童像共有）

○ 校内研修会

- ・2019 度の外国語活動における文科省の動向。（直山視学官研修会の復伝等）

- ・公開授業の指導助言および各校の要望に応じたテーマで演習（30 分～2 時間枠）

※新学習指導要領、年間指導計画、評価について解説する。（文科省より県・市教委をとおして各校に配布された資料の解説）

(4) 教材・教具、映像資料の作成・共有

- ・市内各校の参考となる授業実践や汎用性の高い活動、児童の学習に効果的なワークシートや、パワーポイント（クイズ、フォニックス等）、カード等も防府市教育委員会の Common フォルダを活用し、市内のどの学校からも活用できると紹介。

### 3 配置校・兼務校以外の学校について

#### (1) 校内研修会での指導助言

- ・各校からの要請により、派遣校の校長の承認を得て、夏季休業中もしくは、水曜日（配置校派遣日）午後の校内研修に参加し、指導助言を行う。
- ・研修内容は、配置校・兼務校と同じく新学習指導要領に対応した授業づくり（市内共通）と、各校の課題に沿った講演・演習を前・後半に分けて実施。

#### (2) 市内共通の指導案雛形データや文科省からの最新情報の提供

### 4 市の学力向上の取組について

#### (1) 防府市教育委員会主催、「外国語活動研修会」（悉皆研修）

- ・小・中英語推進教員を派遣する。（公開授業を参観し、授業後の協議会で指導助言を新指導要領に関わる取組等の解説を10～30分程度行う。）

※推進教員は、中央研修等で学んだ手法の授業活用例も必要に応じて紹介する。

#### (2) 小中高連携英語教育の市内連携校（桑山中、華浦小、新田小、華城小、佐波小）

- ・連携校研修会を3回実施。1回は小中連携でめざす生徒像の共有、公開授業における小中共通の目標を設定し、2回指導案検討会を行った。（桑山中会場）

#### (3) 防府市教育委員会主催、「外国語活動のための英会話教室（通称：市役所留学）」の司会・運営・講師・講師依頼を務める。

日程	扱う言語材料
9月30日（木）	名詞の単数形と複数形、形が違うのには意味がある（形で変わるイメージの違い）
10月25日（金）	助動詞を小から中へ
11月8日（金）	過去形でぐんと広がる時の世界
12月6日（金）	語順の色分けを小から中へ
1月31日（金）	ALTとのパフォーマンステスト評価
2月19日（水）	次年度に向けて（高学年用教科書を眺めながら小3～中3までの授業を構想しよう）

小中連携推進のため、小教員と中英推進、中英教員と小英推のコンビで基本講座を実施。会場は市役所。時間は18:30～19:30 JETのALTも参加。



※「市役所留学」は今年度実施4年目。JETのALT（11名）も参加する自主研修会でALTと隣り合って座り言語活動を1対1で行う。写真は佐伯亮輔教諭（玉祖小）による「語順を視覚的に理解させるための色分け」に関する模擬授業の様子。

#### (4) 中学校英語科部会主催”第2回 防府市 Show and Tell 大会 “の審査員協力

## 5 「読むこと」「書くこと」の実践事例

(1) ジョリーフォニックス (玉祖小学校6年生) ※「読み」「書き」両方の指導



・中核教員研修会で実施したフォニックスの手法を取り入れている。(全8段階)

- ① カードを使って1文字ごとの名前と音を確認する。
- ② 2文字、3文字とブレンディングしながら発音させる。(s←i si, si←p sip)
- ③ 文字を様々な組み合わせで教師が発音し、児童は音に合わせてカードを置く。
- ④ フォニックス用の文字書きシートを活用。(音を聞く→カードを並べる→英語を書く)

※文字書きシートの文字は、最初は丁寧に教師と一緒に1文字ずつ書く。

※5年生もフォニックスの3段階 (s, a, t, p, i, n) までを今年度中に実施する予定。

(2) アルファベットフォニックスジングル (玉祖小学校6年担任 佐伯教諭作成)

# Phonics Training

Aa	Bb	Cc	Dd	Ee	Ff	Gg
Hh	Ii	Jj	Kk	Ll	Mm	Nn
Oo	Pp	Qq	Rr	Ss	Tt	Uu
Vv	Ww	Xx	Yy	Zz		

a

b

c

佐伯教諭(玉祖小)が独自に  
パワーポイントで作成。  
授業開始時の warm-up で活  
用している。

(3) 新教材の Story Time (絵本を活用した「読むこと」指導)

- ・英語絵本を読む面白さが伝わる指導(絵、ジェスチャー、効果音、表情)をする。
- ・フォニックスとリンクさせた読み方指導

※新教材の言語活動に使われる言語材料を絵本から引用することで、児童の英語への興味が高まり、視覚的支援も相まって言葉の理解が深まる効果があった。言葉をよく理解できているので、後の言語活動も全員が楽しく会話する様子が見られた。

(実践校)

- ・玉祖小学校1年生公開授業(中核教員研修会)→” Ketchup on your cornflakes”
- ・松崎小学校1年生公開授業(中核教員研修会)→ “Brown Bear, Brown Bear,” “What did you see?”
- ・佐波小学校4年生公開授業→” The Hungry Caterpillar” (一部抜粋)

(4) 文部科学省のワークシートを活用した「書くこと」指導

・玉祖小学校6年生 (Unit 1 This is ME. より) の「全員が参加できる活動」例

① グループで伝え合うテーマ：好きな動物、スポーツ、教科 (ワークシート活用)

※ワークシートを元にT1が自己紹介をし、児童から聞き取れたことを引き出す。

② Arts and Crafts (図工) が聞き取れていない→ワークシートを使い、発音確認。

③ 「自分の好きな動物、スポーツ、教科」をシートの中から選び、絵に○を付ける。

④ 自分の言うこと (内容) がはっきりした状態で、「好きなもの」を伝え合う。

※T1T2 ボランティア児童2名の計4名でデモンストレーションを行う。

(以下、活動内容の具体)

ボランティア児童1名 (机の配置と同じ場所。グループ前列左側の児童が1番) に残り3名の班員が” What animal do you like?” →児童①” I like koalas.” → (児童①の肩をたたいて)

T1:” Oh! You like koalas? I like dogs!” →児童②” Oh, you like dogs? I like cats.

→T2” Oh-! You like cats? I like tigers.” →児童①” Oh, you like tigers? I like koalas.”

→全員でハイタッチ” Yeah!”

※全班ハイタッチをしたら、次のトピック” What sport do you like?” に入る。

⑤ワークシートに、伝え合った「好きなもの」をなぞり書きして、書き写しを行う。

(5) 振り返りシートを活用した「書くこと」指導 (ノートにつながるものとして指導)



各校で様式自由。  
(ふり返りがワークシートと二体型のものもある。)

## 6 外国語教育の取組における成果と課題

### (1) 成果

- ・担任教諭がT1として外国語活動の授業実践しており、参考となる実践が増えた。訪問時にミニ研修で実践を校内共有し、市のcommonフォルダーに優れた実践(指導案・ワークシート・パワポ教材等)を提供してもらい、各校で活用できるようになった。
- ・「市役所留学」等自主研修会の講師に、市内小中学校の教諭を招き、同じ文法事項等を扱った模擬授業を小中それぞれの視点で行うことで、小中連携推進が図れている。
- ・新学習指導要領に沿い、「言語活動」や帯活動でのSmall Talkを授業に毎時間位置付け、達成すべき「めあて」を設定した授業が行われている。また、デジタル教材を「聞き取り」ではなく、「思考」させる手立てとして活用している授業が増えた。
- ・小中連携を促進したことにより、中学校が実施している” Good-bye Challenge”を「指導と評価を一体化した振り返り活動」として取り入れる小学校が増えた。

### (2) 課題

- ・具体的な「評価材」を使って「評価」を行う演習や児童を「思考」させる発問や活動等を考える授業づくりを、小中連携して行う研修会の実施が今現在の課題である。